



平成19年3月26日（月）

愛知県産業技術研究所 常滑窯業技術センター

担当 生浦、水野

電話 0569-35-5151

愛知県産業労働部地域産業課技術振興・調整グループ

担当 來住南（きすな）、村上

内線 3361, 3360

電話（ダイヤルイン）052-954-6340

常滑焼の魅力を再発見、伝統技法を収録したDVDが完成

— 常滑窯業技術センターの研究成果発表会で公開します。 —

古くは平安時代に遡る常滑焼の製作技法を未来に伝承するとともに、この技法を活用した新製品の開発を目的として、愛知県産業技術研究所常滑窯業技術センターでは、平成16年度から常滑焼の伝統技法を収録した視聴覚資料「常滑焼伝統技法」を作成しています。

「常滑焼伝統技法」は、平成16年度に「茶器編」、平成17年度は「大物・陶彫編」を制作したのに引き続き、本年度は「陶芸編」を作成し、これにより三部作が完成しました。

4月18日（水）に開催する常滑窯業技術センターの研究成果発表会において、この「常滑焼伝統技法：陶芸編」を公開します。

「常滑焼伝統技法」は、今後、中部国際空港内の常滑焼店舗「陶翔」で上映されるほか、常滑市内の観光施設でも活用します。また、貸出し希望の方には、常滑市環境経済部商工観光課にて対応します。

1. 背景

日本六古窯(こよう) (1) の一つに数えられる常滑には、削(けず)り (2)、練(ね)り上(あ)げ (3)、象嵌(ぞうがん) (4) といった、土の持ち味を生かす優秀な伝統技法が伝えられています。また、自然の灰釉(はいゆう) (5) が掛かることによって、土の魅力を引き出す穴窯(あながま) (6) 焼成についても、常滑独自の特色が見られます。

原料や情報の均質化によって、各陶磁器産地の特色が失われつつある今日こそ、伝統に裏付けられた特色あるものづくりが重要です。この「常滑焼伝統技法」は、伝統ある常滑焼の技法を未来に伝承するとともに、その技法を活かした新製品の開発に結びつけ、産地の活性化を図ることを目的に制作しています。

2. 「常滑焼伝統技法：陶芸編」について

- (1) 収録時間 全2時間 DVD 1枚
- (2) 制作協力 とこなめ焼技術協議会
(とこなめ焼協同組合、常滑陶磁器卸商業協同組合、常滑市)
- (3) 収録した技法と実演者

技 法 名	実演者（敬称略）
削(けず)り、紐(ひも)づくり (7)	小西洋平(こにし ようへい)
押文様(おしもんよう) (8)、刷毛目(はけめ) (9)、粉引(こひき) (10)	谷川 仁(たにかわ ひとし)
縁切(ふちぎ)り (11)、凹(へこ)まし (12)	山田 常山(やまだ じょうざん)(四代)
ロクロ成形(せいけい)	竹内 公明(たけうち きみあき)
練り上げ(ねりあげ)	田鶴浜 優香(たづるはま ゆうか)
染付(そめつけ) (13)、ロウ抜(ぬ)き (14)	山田 元三(やまだ もとぞう)
象嵌(ぞうがん)	水上 勝夫(みずかみ かつお)
穴窯焼成(あながましょうせい)	常滑市立陶芸研究所



3. 配布先

常滑市 環境経済部 商工観光課
(観光プラザ、登り窯広場、民俗資料館、陶業試作訓練所、陶芸研究所)

とこなめ焼協同組合、常滑陶磁器卸商業協同組合、常滑商工会議所、
陶翔（中部国際空港ターミナルビル4階）
このほか、陶磁器産地の図書館等にも配布予定です。

4. 研究成果発表会について（詳しくは[プログラム](#)参照 pdf ファイル：12kB）

- (1) 日 時：平成19年4月18日（水）午後1時30分～3時10分
- (2) 会 場：愛知県産業技術研究所 常滑窯業技術センター 講堂
常滑市大曾町4丁目50番地
- (3) 内 容：平成18年度に常滑窯業技術センターが実施した研究の成果を発表
します。

※発表内容

- ・J形棧瓦用補強固定金具の開発
- ・床暖房用タイルの試作研究
- ・超親水性酸化チタン薄膜を付与した建材の開発
- ・低温焼成素地の応用化
- ・伝統技法を活用した新製品開発（[参考1 pdf ファイル：31kB](#)）

(4) 申込み及び問合せ先

電話またはFAXでお申込みください。

愛知県産業技術研究所 常滑窯業技術センター

電話：0569-35-5151 FAX：0569-34-8196

URL：<http://www.aichi-inst.jp>

（3月27日（火）午前9時からホームページに掲載）

5. 貸出し（DVD及びVHS形式にて貸出します）

- (1) 貸出窓口 常滑市 環境経済部 商工観光課
常滑市新開町4丁目1番地 電話0569-35-5111
- (2) 貸出開始 平成19年4月18日（水）

※参考1 [伝統技法を活用した新製品開発について](#)（pdf ファイル：31kB）

※参考2 [「常滑焼伝統技法：陶芸編」に登場する陶芸家](#)（pdf ファイル：274kB）

<用語解説>

(1) 六古窯

我が国において平安末期から鎌倉時代以来今日まで、陶磁器を大量に生産している窯場のことで、瀬戸（愛知県瀬戸市）、常滑（愛知県常滑市）、越前（福井県丹生郡越前町宮崎・織田地区）、信楽（滋賀県甲賀市信楽町）、丹波（兵庫県篠山市今田町立杭）、備前（岡山県備前市伊部）の六ヶ所である。

六古窯の中でも常滑は中世以来、壺やかめが主製品であった。今日も、無釉の焼締製品など土味そのものを生かす技法に産地としての特徴がある。

(2) 削り

素地に施す模様で陰刻と陽刻に分かれる。陰刻はヘラ、釘などで単純に線を彫りつけるものから、器物の表面にカンナを踊らせ、連続模様をつける技巧的なものまで含まれる。陽刻はいわゆるレリーフで、模様を浮き彫りにするものである。

(3) 練り上げ

2～3色の色の異なる土を用いて、軽く練り合わせたり貼り合わせたりすることで、木目、筋、市松、ウズラ（鶉の羽のような波模様）等の模様を出すこと。

(4) 象嵌

着色素地に線彫りと地彫りをし、その中に化粧土等を丹念に埋め込み、表面を削り仕上げしたもの。埋め込んだ化粧土が焼成後も隙間なく仕上げるのに熟練を要する。

(5) 灰釉

草木を燃やした灰は、釉薬の原料になる性質を持っているため、長石などと配合することで様々な釉薬（灰釉）が作られている。薪を燃料とする穴窯や登り窯では、薪が燃えて灰になったものが器物に降りかかり、焼成中に素地と反応して天然の灰釉になる。

(6) 穴窯

縄文時代や弥生時代に、平地に穴を掘り、薪の上に乾燥させた粘土製品を置き、さらにその上に草や木を置いて焼成したことに始まり、その後、谷あいの斜面に穴を掘り、斜面の下の口を焚き口として作った単房式の窯のこと。現在は耐火煉瓦によって築窯している。燃料は松、杉等の薪が中心で、炎が直接器物にあたって生じる火色、燃焼した薪が天然の灰釉になり、器物に降り掛かってできる景色など、穴窯焼成ならではの趣が得られる。

(7) 紐づくり

粘土で紐を作り、これを積み重ねて器物を成形する技法。直径6～7センチの太い紐を用いれば陶製風呂桶のような大物を成形することができ、細い紐を用いることで花器や湯呑のような小型の製品を作ることもできる。

(8) 押文様

素地が柔らかいうちに、木、石膏、素焼などで作った印判を押したもの。印花とも呼ばれる。

(9) 刷毛目

化粧土を用いて、刷毛や筆で模様を描くもの。豪快な刷毛目を出すには、ミゴと呼ばれる稲の穂の部分束ねたものを用いるのがよいとされている。

(10) 粉引

鉄分を含んだ素地に、白い化粧土を全面に施したもの。

(11) 縁切り

器物の縁を切って形に変化を出したもので、割山椒が代表的である。

(12) 凹まし

素地が柔らかいうちに、指やヘラで表面を押さえ、すじやくぼみをつけたもの。

(13) 染付

呉須と呼ばれる、コバルトを主成分とする絵具で下絵を描き、透明釉を掛けて焼成するもので、中国明の時代、景德鎮で生まれた。

(14) ロウ抜き

絵付をする素地に、湯せんで溶かしたパラフィンやラテックス（合成ゴムを主剤とするマスギング剤で、絵付をした後はがすことができる）で模様を描き、その上から絵付を行って、模様を白抜きする技法。

参考1：伝統技法を活用した新製品開発について

研究成果発表会では、常滑窯業技術センターが「常滑焼伝統技法」の作成と平行して開発した常滑焼の新製品も紹介します。

(1) 浴室用品



灰釉つば押し具



伊羅保釉つば押し具



陶製鏡フレーム

型押し成形や鑄込成形による足のつばを押す健康具や、朱泥など伝統素材を用いた、陶製の鏡フレームといった浴室回りの用品。プラスチック等の従来品にはない高級感がある。一部は穴窯焼成による。

(2) 中部国際空港で販売する土産品



常滑の切り絵の陶額



陶製アクセサリ-他



ふたものやピンクッション

化粧土、火燗といった土の持ち味を生かすことで常滑らしさを出した陶額、女性に人気のある陶製アクセサリやふたもの、ピンクッション等の土産品。

参考2 「常滑焼伝統技法：陶芸編」に登場する陶芸家

小西 洋平 氏 (削り、紐づくり)



谷川 仁 氏 (押し文様、刷毛目、粉引き)



山田 常山(四代)氏 (縁切り、凹まし)



竹内 公明 氏 (ロクロ成形)



田鶴浜 優香 氏 (練り上げ)



山田 元三 氏 (染付、口ウ抜き)



水上 勝夫 氏 (象嵌)



常滑市立陶芸研究所 (穴窯焼成)



愛知県産業技術研究所 常滑窯業技術センター
平成18年度研究成果発表会のご案内

文部科学省では科学技術に対する国民の関心と理解を深めるため、4月18日の発明の日を含む1週間を科学技術週間と定め、全国各地で記念行事が開催されます。常滑窯業技術センターにおきましても、平成18年度に実施した研究成果の発表会を下記のとおり行いますので、多数ご参加くださいますようお願い申し上げます。

記

【日時】 平成19年4月18日(水)午後1時30分から3時10分まで

【場所】 常滑窯業技術センター 講堂

【内容】 平成18年度研究成果発表

1. J形棧瓦用補強固定金具の開発
2. 床暖房用タイルの試作研究
3. 超親水性酸化チタン薄膜を付与した建材の開発
4. 低温焼成素地の応用化
5. 伝統技法を活用した新製品開発

【参加料】 無料

【申し込み先】 愛知県産業技術研究所 常滑窯業技術センター

Tel: 0569-35-5151 Fax: 0569-34-8196

常滑窯業技術センター 三河窯業試験場

Tel: 0566-41-0410 Fax: 0566-43-2021

----- キ リ ト リ -----

平成18年度研究成果発表会参加申込書(平成19年4月18日開催)

会社名		Tel	() -
受講者氏名			

Fax 番号: 0569-34-8196(常滑)、0566-43-2021(三河)